



国際感覚豊かなならはっ子の育成を目指して

檜葉町の教育の重点の一つとして、英語を中心とした外国語教育や国際理解教育が挙げられます。特にこども園での英語活動は大きな成果を上げており、小学校に入学段階で多くの子どもたちがあいさつや数字、歌などを英語で話したり歌ったりできるようになっています。そして、今回、ギリシャのオリンピック小学校との交流なども契機としながら、一層の国際理解教育を推進するため、コロナ前に実施していたいわき市の東日本国際大学と連携した留学生による活動を再開することとなりました!!! まずは中学校で子どもたちと留学生が英語でコミュニケーション。はじめは一问一答のスタイルでしたが、後半のフリートークでは、留学生が子どもたちの輪の中に入って、好きなアニメや日本文化などについて英会話を楽しみました。その後は放課後ならはっ子教室で、留学生の母国であるモンゴルやアルゼンチン、ミャンマーの文化や遊び、言語などについてワークショップを体験しました。一年に3回程度、今後もこうした英語や国際理解教育を町では進めていきます。国際感覚豊かなならはっ子に育ててほしいです。



小学校では文化についてのお話を、中学校では英語でのやりとりを体験しました。

ならは 100 年祭でゆずメニューを披露・販売します!!!

たびたびお知らせしてきました檜葉産のゆずと木戸川の水を使用して、小学生が振興公社とともに開発してきたゆずジュースと、その関連商品であるゆずシロップを使ったゆずのかき氷が **8月17日(土)に笑みふるタウンで行われるならは 100 年祭でお披露目**されます!!! アイディアから一年、3度の試飲会を経て、町内の多くの皆さんに応援してもらいました。暑い夏の会場で食べるかき氷と、キンキンに冷えたゆずジュースはさっぱりで最高!!! なはず。当日はメニュー開発をがんばってきた子どもたちが実際に販売します。ぜひ、お立ち寄りください!!!



子どもたちが一年かけて完成させました!!!



ゆずジュースだけでなく、ゆずゼリーとゆずのかき氷も商品化に成功!!!

能登半島地震から半年。復興半ばの 輪島市門前地区を応援しませんか？

1月1日に発生した能登半島地震から早くも半年が経過しました。テレビで報道されているように、道路の復旧が進んでいないことや高齢化率が非常に高いことなどもあり、残念ながら、これまでの震災と比べて復興・復旧が大幅に遅れており、震災関連死される方が多く見られるそうです。先月号でもお知らせしましたが、協働センターでは能登半島地震の復興を推進することを通して、子どもたちが「サポートする側」となり、より自分事として復興を捉えられる教育の機会にしています。先日は子どもたちの応援メッセージが輪島に届けられ、現地の人々を大きく元気づけたとして、取り上げられました。全国的にも原発事故災害は悲惨なもので、そこに住む樫葉の子どもたちからの応援は他地域とは異なるようです。今後は100年祭やスワン祭などで輪島のお土産を販売、募金活動を行います。

1箱1000円のおいしい輪島のお菓子ですので、ぜひおいしく食べて、能登を応援しましょう!!! (個別に購入、ご支援いただける場合は事務局までお知らせください。)



樫葉からの応援メッセージが被災地を元気づけています!!!



寄付の100円を加えたひと箱1000円で販売します。売り上げは全額輪島市門前地区の仮設商店街に寄付されます。個別販売と、募金活動も行う予定です。ぜひご協力ください。

地域と学校の在り方についての講演会を開催します!!!

8月20日(火)の10時から12時まで、樫葉小学校内の地域学校協働センターでコミュニティ・スクールに関する講演会を開催します。講師は中央教育審議会の専門委員も務めている東京学芸大学理事の竹原和泉さんです。今回も樫葉町だけでなく、富岡町や川内村、広野町など、近隣の自治体からも地域や保護者の皆さんが参加する予定です。情報交換もできますので、ぜひご参加ください。



和気藹々とみんなで語り合っています。

樫葉町地域学校協働センター主催
文部科学省CSマイスター派遣事業

令和6年度
樫葉町 コミュニティ・スクール講演会

【講演テーマ】
地域と学校の連携・協働の視点
～地域と学校の「場」としての意義～

講師：
特定非営利活動法人 まちと学校の暮らし
代表理事 竹原 和泉氏

【講師プロフィール】
大学で初等教育・社会教育を専攻。フランス・米国・日本で3人の子を育て、ボランティア活動PTA活動を行う。その後、横浜市都筑区社会教育指導員、教育委員会生涯学習推進職員を経て、東山田中学校コミュニティハウス館長を11年間務め、地域と学校を結び「場」を運営。2005年より東山田中学校区・神奈川県立高校・特別支援学校等で学校運営協議会委員、中央教育審議会臨時委員、コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会委員等を歴任。国立大学法人東京学芸大学理事(連携・特命事項担当)、文部科学省CSマイスター。共著に『アメリカの学校と地域を結び学校ハンドブック エッジモント学区ブルーブック全訳』(2003年)。

8月20日(火) 10時00分～12時00分
場所：樫葉町地域学校協働センター(樫葉小学校1階)

・当日は10時00分より開場いたします。樫葉小学校の玄関からお入りください。駐車場につきましては、樫葉小学校併設の臨時駐車場をお使いください。
・お菓子の販売は9時から12時までの間です。下の申込書を7月19日(金)までに、各校区もしくは樫葉町地域学校協働センターまでご提出ください。
・ご不明な方は、地域学校協働センターまで【070-7421-5156】お気軽にお問い合わせください。

樫葉町でも提供してきた学校と地域の協働、そしてコミュニティ・スクール。近隣自治体と共に地域づくりにとっての意義を再確認しましょう!

【地域学校協働センターからのお知らせ】

○ 物品寄付のお願い

以前もお知らせしましたが、協働センターは地域の皆さんや地域団体の皆さんからの物品寄付で子どもたちの居場所をつくっています。ご家庭に不要な遊び道具、レゴやカプラ、ドミノなどのおもちゃ、トランポリン、ハンモック、カーペットなどがありましたら、お知らせください。